

¡Hola, amigos!

第068号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするようにしたいと思います。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2005年07月08日 カアディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは067号(07月01日)、066号(06月24日)

の二週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



今週号 No. 068 (2005年・第28週) 07月08日更新

「大西洋の散歩」の巻

大西洋を歩く、とは大げさな、と言われそうですが「ウソ」ではありません。

ビーチ・ウォーキングといえば浜歩き、または渚歩き、足が濡れるか濡れないかと言う程度でしょうか？ 私達が歩くのは水の中、言い方を変えれば海の中、そしてこの海は大西洋。だから「大西洋を歩く」ということになるわけです。

去年の秋、カアディスに引っ越してからというもの、余程の荒天でない限りほとんど毎日浜歩きはしていました。そして「暖かくなったら裸足で歩こう」と、ずっと言い続けてきました。5月末に日本から帰ってくると、浜はもう「ほとんど夏」の様子。

裸足散歩の季節到来です。早速ビーチ・サンダルを買いました。

ウチからは前の一方通行路と遊歩道を横切ればすぐ砂浜ですから、はじめっから裸足で出てってもいいんです、水着で出てゆく人もいます。でも、とにかくペットの落し物が多いところですから、道路を裸足でというのはちょっと勇気が要ります。

遊歩道には約150メートル毎に浜へ降りる階段があり、そこから満潮線まではボード・ウォークになっています。階段から浜へ降りたらすぐ裸足になります。海から上がった帰りには、板の上ではなく焼けた砂の上を歩くのも冷えた足に気持ちがいい。

波打ち際へつくとそのまま水中へ。膝ぐらいの深さまで入って歩きます。

足を水から抜かず、水底の砂をするように摺り足で歩きます。シマシマのツナギの服を着て、足首につながれた鉄の玉を引きずって歩く囚人の漫画がありますね、あの調子で歩くんです。やってみると分りますが、これ、けっこう運動量が大きいです。

普通に地面を歩くのでは腹筋にこたえるような感じはしませんが、これは結構効きます。足を水から抜いちゃっては効果がありません。



まずウォーミング・アップはこの程度の浅いところから。そしてだんだん深みに。

Rは時には腰の深さまで。もちろん海パンで。Nは短パンでせいぜい膝まで。

疲れたら浅いところへ移動したり、また深い所へ戻ったり、後ろ向きに歩いたり、こ

うして3キロも歩くと普段の散歩10キロ分ぐらいにコタえます。

この散歩のベスト・タイミングは朝10時からだいたい正午まで。正午を過ぎると海

水浴客がドッと押し寄せますから、こんなセイセイとした散歩はできません。

この時間帯は断然ジジ・ババの天下。私達同様水の中を歩いたり、潮の引いた濡れた砂浜を歩いたり。夫婦で話しながら、またはお互いダンマリで。あるいは孤独にウォ

ークマンなど聞きながら。

水の中をと言っても、その大部分の人はせいぜい足首程度の深さをバシャバシャとしぶきを飛ばしながらで、膝の深さを歩く人はほとんどいません。だから私達の歩くところはたいてい無人で、後ろ向きに歩いても誰かにぶつかる心配はまずありません。

たまに私達を横切るのは泳ぐつもりでまっすぐ深いところへ向かう人ですが、この時間にはジーさんバーさんがほとんどですから、そういう人もめったにいないんです。



この時間、浜も海水もまだ荒らされていませんから、透明度もこの通り。



ねっ、キレイでしょう？ アシが、じゃありませんよ。陽光がキラキラと波紋に反射します。こういう波紋が出ている所は水底の砂が敷石道のような形で硬く締まっています。足の裏のツボ刺激にはもってこい。水中の青竹踏み。



腰まで入ってゆくとこういう感じになります。水を押し歩くことになりこの深さを
4～500メートルも歩くともうへトへト。



沖が荒れていると、たまにはこんな波もきて、帽子・サングラスもびしょぬれ。立ち
止まると足裏の砂が波でサラサラと崩されてゆくのが分かります。不思議な感触。



波の中を歩くのも愉快ですが、やっぱりこういう静かな水面をのんびり、というのが一番。でも、これでは「大西洋を歩く」という看板は偽りあり、になってしまいますね。こんなところで小魚が泳いでいるのを見ることもしばしばです。今のところ魚名は判っていません。色も体形も鱈(キス)に似ていますが、白ギスはスペインの魚類

図鑑には出ていませんし、市場でも見たことがありません。

このあたり、海水温はかなり低くて、泳ぐにはちょっと、という感じです。昼過ぎになると若い世代がどっと繰り出して、水に入る人数も増えますが、それでも本格的に泳いでいる人は少ない。計ったことはありませんがせいぜい22~3度ぐらいじゃないでしょうか。この調子で、ひと夏水中散歩を楽しんだ副産物として腹筋が締まれば言うことなしなんですけどね。それなら腹筋運動でもすればいいじゃないか、ということになりますが、腹筋運動なんて面白くもなんともないから、どうせ続きません。その点裸足の散歩はそれ自体が愉快・爽快。帰ってきてからのランチ・ビールのうま

いこと。この副効果は即効性あり、間違いなし。***

「カァデイスの饅飩」の巻

前にお話した「サイゴンのうどん」は米粉のフォーでしたが、カァデイスの饅飩とは
なんぞや？

私達は大の麺好きで、長ものなら何でも来い。そば・うどんをはじめラーメン、ビーフン、スパゲッティ。春雨、そうめん、ひやむぎにいたるまで全部好物と言えます。周りを見渡して、一つ気がつくのは、ノンベと自他共に認める人は押しなべて麺類が好きらしいということ。一方、麺はどうもおっしゃる方は大体サンズイのほうも召し上がらない方が多いように見受けられます。当たってますか？

「ときそば」の主人公なんかも前者にちがいないでしょう。

前の住所ベナルマデナ周辺には何軒か中華食材店があつて、うどんやそばなど乾麺が
けっこう手に入りました。尤も、出どころの怪しいものもかなり多かつた。

「うどん」を強いて漢字で書けば「饅飩」ですよ。 「烏冬」なんて字が当ててあり
ゃ、どう考えたって海の向こうという気がします。

まあ、それでも一応「饅飩」の食感はそれなりに楽しめたのでこの「烏冬」は随分食べ
ました。ところがカァデイスへ来てからまだ中華食材店らしきものを見つけていま
せん。日本食材は大手デパート・チェーン店のグルメ・クラブ(クラブ)と言うところ
にごく少量細々とおいてありますが、残念ながらそば・うどんはありません。

寒いときの熱いうどんもいいですが、暑くなると冷たいうどん・そば・そうめん・ひ
やむぎが懐かしい。なんとかならんかナー？

そこでひねり出した、我が家の冷たい「うどん・もり」は、極細スパゲッティを、こ
れでもか、というほど茹であげて冷水にさらし、ざるに盛ったもの。

その辺のスーパーで売っている一番細いもの、標準茹で時間5～6分と書いてあるも
のを少なくとも約15分、茹でに茹でます。アルデンテ、アルデンテといっている料
理番組のセンスが見たらあきれ返るでしょうね。

元々このアルデンテというやつが嫌い。本来のスパゲッティとして食べるときで
さえそうなんだから、饅飩に化けさせようってのにシンなんかあっちゃいけません。



本日のR亭特薦コミーダ「うどん・もり昼定食」。どうも「カメラのせい」で、イマイチ食欲が沸くようには取れてないのがシャクです。今日は久しぶりに黒ビール。じゃこ天ソーセージも健在。主役はあくまで三色スパゲッティ、じゃなく三色うどん。さあ、これをどうやって食べると思いますか？ うどんに食べ方も何もあったもんじやないですが、ただのうどんじゃないからね。醤油さしの右の片口はめんつゆ。同じく左は例のモホ・ベルデ。その左に覗いているのはチューブわさび。モホと片口の間に見えているのはアホネサ Ajonesa、いうなればんにんにく風味マヨネーズ。一番奥の2本の瓶はレモン味とローズマリー味のオリーブ・オイルです。サア、ドースル。まず、そば猪口にわさびを搾り出して、ごく少量のめんつゆでよく溶きます。次にアホネサを適宜。エッ、それはサラダ用じゃないかって？ 違うんです。モホ・ベルデを適宜、そう小さじ半分ぐらい。オリーブ油はお好みで数滴入れても入れなくても。これを良く混ぜ合わせてから、やおらめんつゆを適当量。サテ、どういう味を想像しますか？ ワカランでしょう？ これがまたウンマイ。ホント。清涼感抜群。***

「夏のプラヤ・ビクトリア」

カアディスに引っ越してじきに、前の浜プラヤ・ビクトリア (Playa Victoria) は紹介しましたね。アレは初冬のことでしたが、いま、盛夏に入って浜の様子は一変しています。アア、ここではもうとつくに、夏真っ盛り、なんです。

冒頭の海の散歩の巻でもいくつかのカットをお見せしていますが、アレはいずれも午前中。毎日、正午を過ぎるころからは、若い世代や、子供を中心にした家族連れでにぎわってきます。学校はとつくに夏休みに入ってますからね。

入れ替わりにジジ・ババは昼食 (コミーダ) とシェスタに帰るのでしょう、ボード・ウオークの上でゾロゾロとすれ違っているのが面白い。世代交代です。

小学館「西和中辞典」で playa を引くと、「浜辺、砂浜、海水浴場」あと、例文で En la costa del Atlántico de **Cádiz** hay kilómetros de playa de arena fina.

(カアディスの大西洋岸には細かい砂の浜が何キロにもわたって続いている) ナンテ出ていて嬉しくなります。こんな文章は日本人執筆者が考えたものではないはずで何かスペインの印刷物からの引用でしょう。だから、カアディスの浜はスペインの人の間でも「いい砂浜だ」という定評があるのでしょうか。多分。

蛇足ですが、Victoria という綴り、英語ならヴィクトリアと表記するところでしょうが、スペイン語ではビクトリアでいいんです。v という発音記号はありません。綴りの V は発音記号では b、日本語のバ行そのままがいいんです。スペイン語の発音は英語より馴染みやすいですね。下唇を噛んで、なんてことは言いません。

時々こんな風にわけもわからずにスペイン語の話を挟みますが、聞き苦しかったらどうぞご勘弁を……。これはR自身の才勉強でもあるのです。ここに書く以上間違っちゃいけない、もう一度しっかり確認して、ということが鈍った記憶力を少しでも刺激してくれたら、という期待です。

サテ、昼下がり、前の浜の様子をベランダから覗くと、こうなってます。



上は潮が引いたところ。あちこちにできた潮溜まりは海水も程よく温められて、ヨチヨチ歩きの水遊びにはもってこい。孫相手のおバーちゃんも安心、楽しそう。



2枚目も3枚目も1枚目と同じ日ですが潮が満ちると、人も満潮線の上に押しやられ浜の人口密度が高くなります。それでも湘南海岸のようにはないのは救いです。これは7月最初の週末ですが、国中全体とつくに夏休み気分、デパートの夏のレバハス (rebajas) バーゲン・セールも7月1日から始まっています。



手前に茶色のパラソルが8本ありますね、このパラソルは棕櫚の繊維で作ったもの。そしてこの板張り部分は車椅子用の休憩所なんです。ここではボード・ウォークも車椅子が楽に通れるように幅広に作ってあります。一番向こうのパラソルの下にオレンジ色のものが見えますね。この写真では良くわかりませんが、これは車椅子の人が座ったまま海に入れるようにしたバルーン・タイヤつきフロートです。

この施設の世話は全てクルス・ロハ(cruz roja)赤十字でやっています。赤十字はこのほか見張り台、500メートル毎くらいに配置された救難ボート、救護所、常時待機の救急車など、全て一手引き受けみたいです。

私達のごく近いところに住んでいくせに、夏の湘南海岸へは行ったことがありませんでした。テレビで見る混雑振りに恐れをなしていたんです。だから日本の海水浴場でこういったことが行われていたのかどうか良く知りません。水難救助のボランティアのことは見聞きしたことがあります、それが赤十字によるものだったかどうか？数えたわけではありませんが、この浜では赤十字のTシャツを着た若者が多分100人以上、いろいろな部署についていると思います。



みんな、のんびりくつろいでいる中で、この真ん中の二人、カートを引いて大荷物をセカセカ運んでますね。冷たい飲み物の呼び売りです。

ナニを言ってるのかハッキリは判りませんが私達の部屋まで聞こえる大きな声です。えー、オセンにキャラメル、みたいなものでしょうね。アーグア(水)とかファンタ、コーラなんてのは時々聞き取れます。当然「セルベサ！」とも言っているはずなんです。が、それは聞き取ったことがありません。

この人達にとっても、細かくて締まった砂地ありがたい商売の助けです。この浜がこうでなかったら、氷と水物をビッシリ詰めた重たいカートを引くことはできない相談でしょう。肩に担ぐには重過ぎるだろうし、乾いた砂地は足が埋まります。到底この商売は成り立ちませんね。呼び止める客の大半は乾いた所にいますから、呼ばれるとカートを湿った砂地に止めて、品物を手に持って客の所へ行くんです。

ポテトチップや駄菓子売りはカートではなく籠を肩にかけています。商品が軽いからそれが可能なんです。が、そういう人達も足が埋まる乾いた砂地ではなく湿ったところを売り歩いています。足が埋まっちゃ距離を稼げませんから。ポテチップ売りは「ナンジャラ・カンジャラ・パタター！」と尻上がりに叫んでいます。



物の影が長くなってきて、そろそろ浜もヒト気が少なくなってきました。みんな帰り支度です。今の時期、20時30分頃の様子です。日没まであと1時間少々。さっきお話した、オレンジ色の車椅子のヒト用のフロート、この写真では少しマシに見えますね。タイヤが太いのと、ボード・ウォークが満潮線まで延びているので、車椅子の人が乗っても砂に埋まることなく海まで行けて、そのまま浮くんです。三々五々浜から帰ってくる人達が手に手に持っている青っぽいや白っぽい四角なもの。これは砂浜用の折りたたみ椅子で、この季節の最人気商品の一つです。一つ前の写真を良く見てください。あちこちに背の低い椅子に腰掛けている人が見えるでしょう？濡れた水着で乾いた砂に座れば砂がべっとり、ということがなく快適そうです。

日本にはこういう商品あったかなあー？

もちろん、あちこちに、パラソル付貸寝椅子屋は商売をしています。けれどもそれはほとんどよそから来た観光客用で、地元の人達はみんなこうして折りたたみ椅子とパラソル持参です。この椅子、7~8ユーロの総プラスチック製や20ユーロ前後のアルミ骨にサランネットの物など色々です。共通項は軽いということ。浜へ出たらまっすぐ海へ、海から上がればバルコン(ベランダ)のセルベサへまっすぐら、の私達にはこの椅子は無用の長物です。



影はますます長く薄くなって、そろそろ日没間近です。

この時間になると今まで上空に追いやられていたカモメ達が浜に帰ってきます。真ん

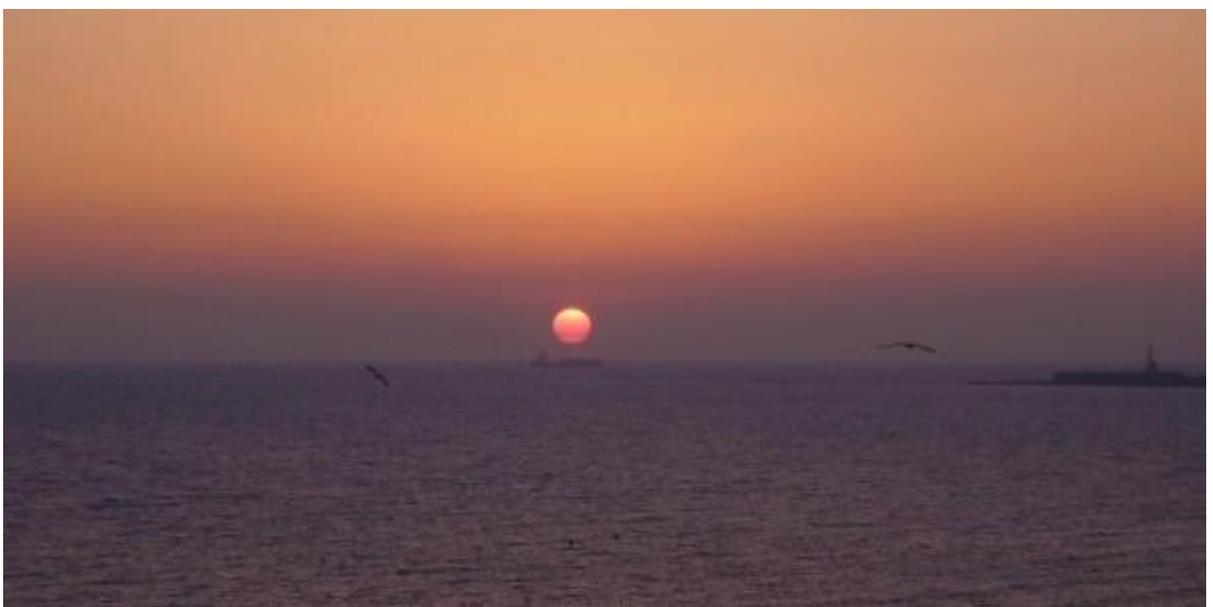
中へん手前に七羽、浜に下りているのが見えますね。

今週の表紙のカットはベランダから撮ったカモメですが、昼の間中、あんな風に上空はるか高いところを飛んでいます。いくらカモメが人を恐れないといっても日中のあ

の人出ではやっぱり浜へは近づきにくいのでしょう。

カラスが鳴くから、じゃなくて、ここではカモメが来たからカーエロですね。***

では、またまた夕日。カァデイスの浜になくてもはならぬ夕日。時間は21時42分。



(沈む夕日、カモメ、灯台、入港船。こりゃ演歌の世界カナー?)
